

平成 28 年度 第 19 回講演会 記録

日 時	平成 29 年 2 月 11 日 (土) 13:00~16:00
会 場	此花会館
講 師	武庫川流域圏ネットワーク代表 山本 義和 先生 (神戸女学院大学名誉教授)
演 題	武庫川流域圏ネットワークの活動 ~より安全で魅力的な武庫川を求めて~
備 考	参加者数 169名 (会員152名、一般10名、公開7名) 記録 西尾光市

《講義の概要》

①武庫川支流の津門川での市民活動

- ・津門川とは 西宮市内を流れ、大阪湾に注ぐ二級河川。全長約 7km 六甲山の湧水 (水源 A) と武庫川の百間樋用水 (水源 B) が水源。西宮北口住民の「昔の豊かな津門川を取り戻して子供達が安心して遊べる川を取り戻したいとの切実な願いがあつた。
- ・津門川塾とは 神戸女学院大学や西宮市と協力して 2005 年 3 月から地域住民による 11 年間に及ぶ活動がスタート。具体的な活動としては、①河川の水質調査 ②魚類の調査—魚道を利用したアユの遡上 ③野生メダカの保護・育成 ④下水処理場の高度処理の有効性 ⑤感覚的環境評価など。これらの地道な活動が社会的に評価され、2006 年 3 月、にしきた商店街・津門川の自然を守る会が「水環境文化賞」を受賞。
- ・アユの遡上する魚道づくり 西宮北口駅近くの津門川に堰があり、この下にアユが群れるも越えることができなかつたが、2003 年に階段状の魚道に作り替えた。8 月に魚道の数 m 上流にアユを発見、その効果を確かめることができた。一方、津門川のアユは武庫川放流の養殖アユが紛れ込んだのではないかとの説があつたので、魚道の少し上流で投網によって捕獲したアユ 3 個体を凍結保存し、東大海洋研究所の新井崇臣先生に耳石の日輪と Sr/Ca 比を調査してもらった。その結果、何れも稚魚期を海で過ごした天然アユであることの実証を得たことは、その後の活動の支えとなつた。

②より安全で魅力的な武庫川を求めて

- ・武庫川はどのような川なのか 2 級河川ではあるが、全長 66Km 流域人口 140 万人 氾濫域資産 18 兆円は全国 10 位の位置にある。中流部に治水ダムの建設計画があつたが、住民参加型の川づくりと街づくりの機運の高まりの中、その計画は中止され、ダムに依存しない総合的な治水工事が始まっている。
- ・武庫川を巡る現状課題 塩止堰 (阪神武庫川駅の南) は、流域地下水への塩害対策として 1992 年に設置されたが、塩止堰と 1 号床止め堰は今後撤去される予定。これらが撤去されると、上流部まで汽水域が拡大され、海の動物の生息域が拡大し、動物の遡上、遡下が容易になると思われる。
- ・武庫川流域圏ネットワークの活動 2015 年 9 月、第 5 回武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会に武庫川流域圏ネットワークから 10 名が参加し意見や要望を述べた。また、武庫川河川敷お掃除会 仁川の特定外来植物オオキンケイギクの駆除活動や武庫川廃線跡ハイキング道問題に積極的に関与した。

③総合治水で思うこと 台風、地震、など自然の力に対して畏敬の念を持ち、封じ込めから、減災の思想への発想の転換が求められている。すなわち、防潮堤・堤防・ダムなどの土木技術への過信を戒めるべき。近年多発する自然災害は、川の流路を狭め、河口部を埋め立て、市街地を拡大させてきた過去の多大なツケによるものといえる。大切なことは、水循環思想を高めて、降雨を流域や緑で受け止め、地下に戻す取り組みを徹底すべき。行政と市民の協働により、市民力を活かした活動が求められている。

《所感》 武庫川中流域でのダム建設計画が事実上撤回されたことは、ダム建設反対を活動のなりわいとしてきた活動は、今、その真価が問われているとのこと。新たな目標を確立して頑張ってください。